

学校の学びにこだわらないとは何か

活動先：NPO 法人ばお

クラス：末盛 慶 先生

1. サービスラーニングの活動を通して

1) 夏休みの活動を通して学んだこと

私が活動を通して学んだことは、計画を立てて実行するということである。いくつかの施設でボランティアをしたことはあったがいつも施設側に沿ったことを手伝っていた。しかし今回の活動は、6日間のうち4日の企画を考えてほしいとのことで私たちが何かしないといけないと責任を感じていた。企画を立てて事前訪問の際に子どもたちに伝えた時に、断られてしまい活動は大丈夫かと心配したが、再度事前訪問を行いお互いが楽しめる企画ができた時には安心をした。活動中の企画は、ばおの雰囲気や子どもたちの協力のおかげで成功した。

活動記録を読み返してみると、「今日は〇〇ができた。〇〇ができなかったからできるようにしたい。」と何度も書いてある。活動中は企画を成功させることと名前を呼んでもらうことばかりに意識がいていた。活動後に代表の方が「企画ができたのは形であって、企画を通して私たちと子どもたちが何を感じたか、変わったかが大切。」とおっしゃった。“夏休みを一緒に過ごす仲間”になろうという計画を立てたものの、大学生だから、サービスラーニングの活動だから子どもたちを引っ張って行かないといけないという意識は少なからずあった。後になり自分たちのことばかり考え、できた、できないの振り返りで、子どもたちの内面をあまり見ていなかったと反省をした。今回の活動は企画の成功が第一目標でなく、私たちと子どもたちが成長すること、子どもたちの変化を読み取ることが本当の成功であったと分かった。

もう1つが学校で学ばない、フリースクールで学ぶという今までの私にはなかった学びの概念が増えたことである。今までは学びは学校でするものという意識があった。しかし、ばおで紺屋海道夏祭りや喫茶ボランティアの手伝いをしたことで学校以外の学びの方が大事な時もあることに気がついた。学校、フリースクールが良い悪いではなく子ども自身が何に興味を持って学びたいか、周りが学びの手助けができるかが大切だと学んだ。

2) ジレンマケースを通して学んだこと

活動中に感じたジレンマをクラス内で話し、検討をした。私が子どもたちに対して取った行動を改めて振り返り、別の意見を聞いたことでこんな対応の仕方もあったのだと気づけた。ジレンマケースに挙がるようなものは決まった対応の仕方がない。6日間という信頼関係が確立しにくい短い期間では何をすれば良かったかを話し合うことは問題解決能力の向上につながったと思う。ジレンマについて考えることは、普段の答えがある学びとは違い、人と人との関係次第で変わっていくもので福祉を学ぶには大切な視点だと思った。ジレンマは今後の実習や卒業後にもたくさんあるだろう。今回の学びを活かして解決に向

けられたら良い。

3) 論文での研究を通して学んだこと

論文を通してばお以外のフリースクールや不登校児の現状、公共サービスなどを学んだ。フリースクールは学校とは違い NPO 法人によってそれぞれの特色が表れている。子どもは自分自身に合ったところを選ぶ必要があるが、実際は地域によっては選択肢が少ないことも分かった。これはまだまだ教育は学校で行うものという社会の意識が強いなど学校の枠から外れた子に対して偏見があることだと考えた。そして高齢者や障がい者を対象とした NPO 法人と異なり、利用者の確保が難しいことも 1 つの原因と思う。

2. 活動を通して考えた社会課題

1) 公的機関とフリースクールの関わり

学校や教育委員会からフリースクールを紹介することは少なく、フリースクールが不登校児を探すことも難しい。ばおの場合もばおを必要とする人が来ない限り支援ができないという現状がある。代表の方が「教育委員会の担当者が変わるたびに説明をしないといけない。」とおっしゃっていた。子どもに合った学びを提供することを考えると公的機関とフリースクールは協働しないといけない。

2) フリースクールの経営

不登校児だからフリースクールに通うわけでもなく、フリースクールが不登校児を探せない、学校復帰をする子どももいるなど利用者の確保は難しい。そして経営は利用者の月謝が中心で経営に苦勞をしている。日本は教育を受ける権利を定めているのだから学校だけでなく、フリースクールにも国からの手厚い支援が必要だと思う。

3) フリースクールから学校復帰や進学する時の学力の差

学力の差は学校に通っている子どもでもあるのだから大した問題ではないかもしれない。しかし学習の時間を 1 日の日程で組み込んでいないフリースクールは子ども自身の学習意欲次第となり学力の差を生みやすくなる。学校の学びがすべてではないと思うが、学校に戻った時に勉強に追いつけずに学校に行きたくなるということは避けたいものだ。そのためには学習ボランティアのような人の受け入れも必要ではないか。